朝日カルチャー「野外の自然観察」

「春の古刹路」　　みやま市　清水寺　　２０２３：４：２１

平安時代の初期に、最澄が創建したといわれる清水寺を、参加者 25 名とスタッフ 3 名の 28 名で散策しました。心配した天気も快晴となり、古刹路を歩くには最高の日となりました。沢沿いの爽やかな空気が心地よく、たくさんの植物や鳥の鳴き声に耳を傾けながら、ゆっくり散策しました。ヤブニンジンはもう種子をつけていました。見上げればハイノキ科のシロバイがたくさんあり、足元の小さな小さなツクシタニギキョウにかわいい！と歓声が上がりました。余り出逢うことが少ないシダの、イワヒトデやクルマシダも群生していました。五百羅漢、仁王門、山門と進んでいきました。石段脇にはたくさんのシャガが咲いていましたので花を分解してその構造を学習しました。雄蕊と雌蕊は？どれ？　どこにあるの？と楽しい会話が飛び交いました。石段を慎重に登り、本堂横の休憩所で昼食にしました。休憩の後、新緑の中から聞こえるオオルリの鳴き声や、キセキレイの説明などを受け、古刹寺のグリーンシャワーを存分に浴びながら下りました。途中に珍しいボロボロノキが壺状の花を付けていました。この木とベニツチカメムシのドラマチックな関係の説明で盛り上がりました。ボロボロノキの結実に合わせて、ベニツチカメムシの子育てが始まり、雌親が 100 個ほどの卵を産みボール状にして、その卵塊を 10 日以上何も食べずに守り、卵がう化したのちは、幼虫たちの待つ巣にボロボロノキの実を運び続けて、子育て途中に命尽きるという話です。ボロボロノキがなければベニツチカメムシは生きられないという過酷な話に「カメムシは嫌いだったけれど少し考えが変わった」とのお話も聞こえてきました。
道中でクサイチゴを味見し、メリケントキンソウの棘の痛さを確認し、ヤブムラサキの葉のビロード感を触って確認し、辺りに漂うシイの雄花の匂いを感じたりしながら、五感をフル活動できました。笑い声が絶えない観察会で楽しい一日でした。解散は 3 時ころとなりました。

スタッフ：廣　戸町　　報告：戸町